

アブラナ科野菜の連作障害対策の取り組み（重点活動）について

佐久管内は高原野菜の産地ですが、近年、連作障害が問題となっています。特にアブラナ科野菜では、主要病害である「根こぶ病」の発生が問題となっており、その回避技術が求められています。

農業農村支援センターでは、浅麓地域を中心に野菜花き試験場、JA佐久浅間と連携して、発生を回避させる技術の一つとしてブロッコリー及びキャベツにおける高畝マルチ栽培技術の検討を行っています。

6月7日には、専用の畦立て機を用い、小諸市及び御代田町のほ場においてブロッコリーの2条マルチベットでの実証、6月17日には、軽井沢町で、キャベツの2条マルチ無しベットで実証圃を設置しました。

今後、高畝マルチ栽培と慣行栽培との生育比較及び収穫時に根こぶ病の発生程度の比較検討を行います。また、専用の畦立て機が必要であるためコストが掛かりますので、農家の意見や経営的な試算も検討してまいります。



左上 土壌調査
(小諸市三岡)

右上 専用の畝
立て機 (御代田
町馬瀬口)

左下 高畝にブ
ロッコリー定植
直後 (同上)

右下 高畝にキ
ャベツ定植2週
間後の様子 (軽
井沢町上発地)